

第〇学年 道徳科学習指導案例（細案）説明入り

日 時 令和〇年〇月〇日（〇）〇校時
対 象 〇年〇組〇名
指導者 〇〇 〇〇

1 主題名 「(例) まわりをよく見て考えるきまり」 【内容項目C 規則の尊重】

本時で取り扱う内容項目の中から、どのような道徳的価値をねらいとするのか端的に表したものを記述する。なお、関連する内容項目を併記する。

2 ねらいと教材

きまりの意義を理解し、みんなのことやまわりの状況を考えて、きまりを守ろうとする〇〇を育てる。

「雨のバスでいりゅう所で」(小学道徳 生きる力4 日本文教出版)

道徳科の内容項目を基に、ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相(道徳的判断力、心情、実践意欲と態度)を端的に表したものを記述する。また、授業において用いる教科用図書やその他の教材の題名を記述する。なお、その出典等を併記する。

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

ねらいや内容項目についての教師の捉え方、指導の意図を明確に記述する。

(2) 児童生徒について

本主題に関連する児童生徒の実態やこれまでの学習状況及び教師の願いを記述する。

(3) 教材について

使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法を記述する。

4 学習指導過程

教師の指導と児童生徒の学習の手順を示すものである。一般的には、学習指導過程を導入、展開、終末の各段階に区分し、児童生徒の学習活動と主な発問、予想される児童生徒の反応、指導上の留意点、評価の視点などを指導の流れに即して記述する。

学習指導過程は、教師の指導の意図や児童生徒の実態、教材の効果的な活用などに合わせて弾力的に扱うなどの工夫をします。

段階	学習活動と主な発問 (○発問 ◎中心発問)	予想される児童生徒の反応	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入 ○ 分	本時の主題に関わる問題意識をもたせたり、教材の内容に興味や関心をもたせたりするようにする。		

展 開 ○ 分			
	児童生徒の実態と教材の特質を押さえた発問などをしながら進めていくようにする。		
終 末 ○ 分			
	学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする活動などを取り入れるようにする。		

5 学習状況（学びの姿）を見取る視点

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、学習活動に着目した上で、何を、どのように見取るのかを記述する。

○道徳科の評価は、ねらいを達成できたかどうかを見取るものではないため、「～できたか」という表記はしない。「こんなふうに考えていたか」「こんなふうに考えようとしたか」のようにするのが適している。

○1単位時間の授業での学習状況（学びの姿）を蓄積し、大きくくりなまとまりを踏まえた評価や児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価につなげるものとする。

6 その他

他の教育活動などとの関連、教材分析、板書計画など、必要な事柄を記述する。

<参考>「4 学習指導過程」における指導方法の工夫（例）

児童生徒が問題意識をもち、主体的に考え、話し合うことができるよう、ねらい、児童生徒の実態や発達の段階、教材や学習指導過程などに応じて最も適切な指導方法を選択し、指導の工夫をします。

教材の提示 読み物教材を提示する際、紙芝居の形で提示したり、劇のように提示したり、音声や音楽の効果を生かしたりする。その際、児童生徒の想像を膨らませ、思考を深めるために精選した情報の提示に留意する。

発問 教師の指導の意図に基づいたねらいに迫る中心発問と、中心発問を深めていくための問い返しや揺さぶりの発問を工夫する。その際、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛ける。

話し合い 考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて、効果的に話し合いが行われるよう工夫する。

書く活動 必要な時間を確保し、考えを深めたり、整理したりできるようにする。また、ノートなどを活用することで、成長の記録としての活用や評価に生かすなどの工夫をする。

動作化や役割演技などの表現活動

特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技の工夫、動きや言葉を模倣したり、せりふのまねをしたりして理解を深める動作化の工夫、音楽、所作、その場に応じた身のこなし、表情などで自分の考えを表現する工夫を試みる。

板書 思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく、対比的、構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりするなどの工夫をする。

説話 教師の体験談や願いなどを話すことにより、児童生徒がねらいの根底にある道徳的価値をより身近に、また主体的に考えられるようにする。

ICTの活用 道徳科の目標に示されている学習活動に着目し、より効果的に行われるための手段としてICTを活用する。